

スィーアツハ
灌木ツツハって何者？

地にはまだ、野の**灌木**もなく、野の草も生えていなかった。

(創世記 2 章 5 節前半)



アシュレークラス月曜日は、創世記 2 章の学びに入りました。

それは 1 章とはまるで異なった世界観なのだと思います。

いつものことですが、銘形先生は、さりげなく問いかけをされる時があります。

スィーアツハ

5 節では「**שִׁיחַ**」というお題が出ました。

何気なく通り過ぎてしまうようなこの語彙に一体、何が潜んでいるのでしょうか。

大いに期待しながら踏み込んでみたいと思います。

イエシュア シエーム

שִׁמְעוּ יְשׁוּעָה



創世記 2 章 5 節 (一部原文)

ヴァーアーレツ イフイエ テレム ハッサーデ スイーアツハ ヴェホール
וְכֹל־שֵׂיִתִּים הַשָּׂדֵה טָרֵם יְהִי בְּאֶרֶץ

「 地にはまだ野の灌木もなく 」

イツマーハ テレム ハッサーデ エーセヴ ヴェホル
וְכָל-עֵשֶׂב הַשָּׂדֵה טָרֵם יִצְמָח



「 野の草も生えていなかった。 」

「 神である【主】が、地の上に雨を降らせていなかったからである。

また、大地を耕す人もまだいなかった。 」

灌木がまだ生えていないのは、大地を耕す人がいないので、生える必要がなかったということです。


逆に言えば、人には灌木が必要なのだということが分かります。

なぜ、灌木 ^{スィーアツハ}  が人には必要なのでしょうか。そもそも、灌木 ^{スィーアツハ}  とは何者なのでしょうか。


先ず、語源から見て行きましょう。



^{スィーアツハ}  の語源 ^{スィーアツハ} 
(旧約 20 回)

^{スィーアツハ}  「 思う 話す うめく : じっくりと考える 」

人が、じっくりと神様のことを思い、黙想にふけり、静かに深く考えると
いう瞑想用語です。特に詩篇では、人が、神様のなさる奇しい御業の思索や
神様の戒め、語り掛けを深く考える語彙として登場します。

^{スィーアツハ}  を、詩篇から追いかけてみましょう。

詩篇 55 篇 17 節

夕べに朝に また真昼に 私は嘆き うめく。すると 主は私の声を聞いてくださる。

詩篇 55 篇は、主を信頼することがどういうことかを、深く考えさせられる詩篇です。

ここでは、ダビデの、自分を裏切った友人や、迫害する敵に責め立てられる、苦しむ心が搾り出されてい

ます。 解決の糸口が見つからず、四六時中、嘆き スィーアツハ うめく  です。

「ああ、私に鳩のように翼があったなら。飛び去って、休むことができたなら。(55 : 6)」

現実逃避したいほどの痛みが伝わってきます。 ダビデの痛みがそのままイエシュアとリンクします。

「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。(ルカ 22 : 42 前半)」と

オリーブ山で苦しみもだえていよいよ切に祈られたイエシュアが映し出されます。汗が血のしずくのよう

に地に落ちるほどの祈りです。(ルカ 22 : 44) 皮肉なことに弟子たちは悲しみのあまり、誘惑に負けて、

寝ています。 **ダビデの孤独と苦悩は、イエシュアのそれと折り重なり、究極の選択が見えてきます。**

「しかし、私はあなたに抛り頼みます。(詩 55 : 23)」と、ダビデは、最後に主の御顔を見上げます。

「しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように (ルカ 22 : 42 後半)」



ご自身に信頼した者をすべて取り込んで、十字架上で御父を見上げて語るイエシュアがいます。

「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」 (ルカ 23 : 34)

詩篇 77 篇 6 節 12 節

6 私は夜、わが心と親しく語り、深く思うてわが魂を探り、言う、

13 わたしは、あなたのすべてのみわざを思い、あなたの力あるみわざを深く思う。

詩篇 77 篇は、アサフが自分の心情を神様に打ち明け、神に助けを求める様子が描かれています。

スィーアツハ

自身の本質に打ちのめされ、醜さに耐えられないまま、心の奥底を注ぎ出す **שׁוּב** です。

詩篇 105 篇 2 節

主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざを **語れ**。

詩篇 105 篇は、神様の恵みと忠誠心を称えるように書かれています。

実は、この詩篇を書いた人がわかりません。「人称なき存在」聖霊によるものでしょうか。

「主がそのしもべアブラハムへの聖なることばを覚えておられたからである。(詩 105 : 42)」

スィーアツハ

神様のご恩寵が際立つ、みわざを語る **שׁוּב** です。

詩篇 119 篇 15 節 148 節

15 私はあなたの戒めに**思いを潜め** あなたの道に私の目を留めます。

148 私は夜明けの見張りよりも先に目覚め あなたのみことばに**思いを潜めます**。

詩篇 119 篇は、バビロン捕囚の恥辱と貧困の中で神の民が気づかされ、何よりも神を愛する者となり、

神の教えである**תּוֹרָה**^{トーラー}を宝として、トーラーライフを築き直す証しの詩篇です。

神様を見上げ、神様を慕い求め、神様を待ち望み、**שִׁיר**^{スィーアツハ}神様を想う詩です。

詩篇 143 篇 5 節

私は昔の日々を思い起こし あなたのすべてのみわざに思いを巡らし あなたの御手のわざを
静かに**考えています**。

詩篇 143 篇は、ただ一つのことを思うダビデが、静かに祈っています。どんなに敵に囲まれていても、

「私はあなたに信頼していますから。(詩 143 : 8)」・・・ 御手のわざを静かに考える ^{スィーアツハ} **שׁוֹמֵר** 静スィーアツハです。

灌木 ^{スィーアツハ} **שׁוֹמֵר** の語源 ^{スィーアツハ} **שׁוֹמֵר** は、神の霊と人の霊をつなぎ合わせる役割をしているようです。

人の内側に潜む闇を、えぐり出すように浮き上がらせ、悩みながら、喘ぎながら・・・、もはや解決策



を失った時、思い出したように神様を見上げ、思い巡らし、

神様に語り掛け、話し始め、

ようやく人生の本質に気づかされる様子を表す語彙に思われます。

^{スィーアツハ} **שׁוֹמֵר** には、いのちの本質が潜んでいるようです。

いのちの本質にたどり着いたとき、人は大きな荷物を下ろしたような安堵感に浸されることでしょう。

闇から光へ、死から復活へ、嘆きから賛美へ聖書全体をたゆむことなく流れる神様の息遣い。

神様と呼吸をあわせて歩む人生、

刹那的で美しく、贖いに隠された、慈しみと恵みの柔らかな風に包まれていくようです。

スィーアツハ
名詞 **תָּוַ**



男性形単数で「灌木 藪」の他に「思いに更ける事」、また

「嘆き 不平 たわごと」の相反する意味で登場します。

動詞も含めて両義性のある語彙です。

ヨブ記では、人間から神に問いかける、

攻撃的で、理解出来ない不条理との葛藤で埋め尽くされています。

ヨブ記 10 章 1 節

・ ・ 私は不平をぶちまけ、たましいの苦しみのうちに私は語ろう。


ヨブ記 21 章 4 節

この私の不平は人に向かってであろうか。なぜ、私が苛立ってはならないのか。

ヨブ記 23 章 2 節

今日もまた、私の嘆きは激しく、自分のうめきのゆえに私の手は重い。

ヨブ記は、神への問いかけ、人への問いかけです。「なぜ」「どうして」「いつまで」という問いかけが、

真理への探究心を研ぎ澄ましていきます。 スィーアツハ とことん打ちのめされた嘆きの  スィーアツハ です。

スィーハー 関連語彙として、名詞  スィーハー は女性形単数で

「黙想、祈り、思いふけること、口ずさむこと、研究」とあります。

「・・・神の御前で**祈る**のを・・・(ヨブ記 15 : 4) 」

「 どれほど私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。

それがいつも私の**思い**となっています。(詩 119 : 97) 」

「 私には、 私のすべての師にまさる賢さがあります。

あなたのさとしが私の**思い**だからです。(詩 119 : 99) 」

先ほどとは一転して

真理を求めた者が、人生の本質をはっきりと見定めてたどり着いた安らぎを表現しているようです。

人がいないために生える必要がなかった灌木 ^{スィーアツハ} **אֶשְׁתִּי** は、むしろ、人の霊と神の霊とをつなぎあわせる
いのちの交わる通り道、神と人をつなぐ、いのちの架け橋のようです。

さて、瀕死の状態で、灌木に放り出された人がいます。(創世記 21 章 14–20 節)

^{イシュマーエール}
יִשְׁמָעֵאל יシュマエル (神は聞きたもう) です。

創世記 21 章 15 節

皮袋の水が尽きると、彼女はその子を**一本の灌木**の下に放り出し、

וַיִּכְלוּ הַמַּיִם מִן־הַחֲמַת

^{ハッスィーヒム} ^{アハド}
וַתִּשְׁלַךְ אֶת־הַיֶּלֶד תַּחַת אֶחָד הַשִּׁיחִים
^{灌木 (複数) (冠詞)} ^{一本の}

^{エハード} אֶחָד ^{一本の} ^{エハード} אֶחָד ^{【主】} は唯一 ^{エハード} אֶחָד ^{【主】} となられ、御名も唯一 ^{エハード} אֶחָד となる。(ゼカリヤ書 14 : 9)

から考察して、

唯一の ^{エハード} **אֶתְרֵךְ** ^{ハツスイーヒム} **רֹמְשֵׁי** (冠詞付男性形複数) の下に放り出されたと、言い換えることができます。

唯一の灌木は、エデンの園に、一つの根から生える「いのちの木」を思わされませんか？

瀕死のイシュマエルですが、「神の使い ^{アドナイ} **אֱלֹהֵי** ^{マルアフ} **מְלֶאכִי**」が現れて (創 21 : 17)、

いのちの水を飲むことが出来ました。

単数の「神の使い」は、いのちの源である神との交わりを回復される、受肉前のイエシュアです。

イシュマエルは、

「彼は、野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。

彼は、すべての兄弟に敵対して住む。」 (創 16 : 12) と預言された子でした。 しかし、

灌木の下に放り出されたことで、いのちを得て、

「神が少年とともにおられたので、彼は成長し、荒野に住んで、弓を射る者となった。」 (創 21 : 20) と

あります。また創世記 17 章 20 節で、神はイシュマエルについて「大いなる国民^{ゴ-イ} **גוי**としよう」と約束し、アブラハムには、ご自身がなさろうとすることを隠さず告げられます。

創世記 18 章 18 節

アブラハムは必ず、強く大いなる国民^{ゴ-イ} **גוי**となり、
^{ハーアーレツ} ^{ゴ-イエー} ^{コ-ル} **הָאָרֶץ גְּיֵי כּוֹל**は彼によって祝福される。

神様の^{ゴ-イ}大いなるご計画が、壮大なスケールで見え始めてきました。

イシュマエルには、「大いなる国民^{ゴ-イ} **גוי**としよう」と約束され、

アブラハムによって、地のすべての国民 ^{ハーアーレツ} ^{ゴーイエー} ^{コール} **הָאָרֶץ כָּל גֵּי כּוֹל** は、祝福されるのです。

その成就の幻をヨハネが見せつけられています。

黙示録 7 章 9-10 節

- 9 その後、私は見た。すると見よ。すべての国民(^{コル・ハツゴーイム} **כָּל-הַגּוֹיִם**)、部族、民族(^{ハーアツミーム} **הָעַמִּים**)、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。
- 10 彼らは大声で叫んだ。「救いは、御座に着いておられる私たちの神と、子羊にある。」

何ということでしょう。 ^{スィーアツハ} 灌木 **שִׁחַ** を追いかけているうちに、

贖われた天の大群衆の賛美にまでたどり着いてしまいました。

イシュマエルに預言された^{ゴ-イ}יְיִשׁוּמָאֵלが複数形^{ハッゴ-イム}יְיִשׁוּמָאֵלִיםになって、大声で賛美しているのです。

今まで以上に「^{ゴ-イム}יְיִשׁוּמָאֵל 諸国の民」がクローズアップされる時代に入りそうな気配です。

新約聖書にも、低木（灌木）のいちじくの木の下にいるのをイエシュアに見られた人がいます。

ナタナエル（神は与えたもう）です。



「見なさい。まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません。」

（ヨハネ 1：47） まさにイスラエル人、

本当のイスラエル^{イスラ-エ-ル}יִשְׂרָאֵל (神が支配したもう) 人です。

自分の考えや力にしがみつくのではなく、

神を拠り所とし、神にすがり、支えとして生きる者だとイエシュアはナタナエルを評価しています。

スィーアツハ

灌木 **ツハ** の下にいるとは、神にご支配される生き方を象徴しているようです。

少しずつ、少しずつ、灌木の正体が、浮かび上がってきました。

スィーアツハ

灌木 **ツハ** は、荒野に生える低木（アカシア材等）で、幕屋建造など、神様との関わりに不可欠です。

エデンの園にはいのちの木、善悪の知識の木もあり、それらは見上げるような木ではなく、

低木（灌木）で人が食べる木です。 それは、普通の「木」ではなく、「神のことば」の表象です。

神様は、人が生きるために必要な「神のことばである木」を生えさせました。



創世記 2 章 9 節

神である主は、その土地に、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を、
そして、園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた。

人が生きるために必要な「神のことばである木」、人が食べるために生えさせた「いのちの木」です。

ヨハネの福音書 1 章 1 節

初めにことばがあつた。ことばは神とともにあつた。ことばは神であつた。

ヨハネの福音書 6 章 53 節 56 節

53 ・ ・ 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。

人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。

56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、

わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。

ここは、極めて重要な御国の奥義です。

いのち（イエシュア）は、イエシュアの肉を食べ、血を飲む者にとどまります。

いのちを食べさせる「いのちの木」・・・「いのちの木」はイエシュアそのものです。

黙示録 22 章 2 節

・・・こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があつて、
毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。

「いのちの木」は単数で、沢山のように見えますが、一つの根です。

新しいエルサレムにもある「いのちの木」、これが灌木の正体なのだとしたら・・・

スィーアツハ
灌木 **קיש** はイエシュアの表象。

ハツマーシーアツハ イエシュア
・・・そういえば、 **קיש** יֵשׁוּעַ

スィーン シーン
「**קיש**」人の形 「**קיש**」神の形 : 「**קיש**」噛む、食事（交わり）

人 100% 神 100% の イエシュアを表しているの？ これって神様の洒落？

「いのちの木」の根から生え出る木で覆われたエデン。 そこに人が置かれました。

神と人がともに住むために。

最初から、イエシュアという灌木で覆われたエデン。 どれほど美しい園だったことでしょう。

スィーアツハ
灌木 **קיש** がイエシュアの表象だと気づかされ、今更ながら驚いています。

スーアツハ

最後に、二根文字 **שׁוּט** 「黙想する」が一回のみ登場しますので、紹介します。

創世記 24 章 63 節前半

スーアツハ

イサクは夕暮れ近く、野に**散歩に** **שׁוּט** 出かけた。

63 節はマナベテルで携挙の記事として扱われていますので、ここでは、イサクの霊性を見てみたいと思います。

スーアツハ

散歩と訳された **שׁוּט** には、「黙想」という意味があります。

イサクは黙想していたのです。 神様に尋ね求めていることでしょう。

エリエゼルが連れて来る花嫁がどんな女性なのか・・・。



それは、もしかしたら、花婿イエシュアが
花嫁エックレーシアを思いながら、
御父に尋ね求めている様子なのかもしれません
ね。どんな花嫁なのだろうって・・・。

黙想して「 尋ね求める 」という行為には、二つあります。

ダーラシュ

𐤃𐤓𐤕𐤕 理性的に 調べたり、問いかけたりする黙想です。

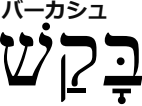
バーカシュ

𐤁𐤓𐤕𐤕 情情的に 霊の奥底から 尋ね求める黙想です。




スーアツハ

𐤍𐤕𐤓 黙想する 神を知り、神と交わるイサクから霊性を学ぶことができます。

イサクは神様との交わりを霊の奥底から尋ね求めて ^{バーカシユ}  いたことでしょう。

野の灌木 ^{スィーアツハ}  に囲まれながら、神と交わり、神を知り、黙想するごとに神と一つになっていたのです。

^{スィーアツハ}  が、イシュマエルを通して、イサクを通して、ダビデを通して、アサフを通して、ヨブを通して、
ナタナエルを通して語り掛けています。

人の奥底に潜む闇から解放し、完全に解決される方がおられるということ、

人の霊を回復させ、いのちを豊かに注がれる方がおられるということ、

すでに霊においては、いのちの造り主であるイエシュアの霊と私たちの霊が一つになっているということ、

神とともに生きてこそ、人はようやく、正常な状態に戻ることができるということ、

神のご支配に委ねる平安と心地よさを味わうようにとされているようです。

マラキ 2 章 15 節

15 神は人を一体に造られたのではないか。そこには、霊の残りがある。

その一体の人は何を求めるのか。 神の子孫ではないか。

あなたがたは、自分の霊に注意せよ。 . . .

16 . . . あなたがたは自分の霊に注意せよ。裏切ってはならない。

セブレイト・スッコートを迎える前に、いよいよ霊性を整える必要を感じます。

来るべき再臨の日を思い . . .

あなたの御顔を仰ぎ見るその日を待ち望みながら . . .

御霊と花嫁が言う。「来てください。」

「しかり、わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエシュアよ、来てください。

主イエシュアの恵みが、すべての者とともにありますように。

アシュレークラス月曜日

逆瀬川 より子

2023.9.20.

